

## 世界を変えた薬の歴史



「歯科手術におけるエーテルの初使用」 アーネスト・ボード 1910年頃

医薬品は、人類の歴史が始まる以前から我々の傍らにあり、多くの人々を病の苦しみから救ってきました。一方で、医薬は使い方を誤れば害毒ともなります。このため、医薬は歴史にプラスマイナスの両面で、大きな影響を与えてきました。イエズス会の宣教師たちがマラリアを癒やす不思議な木に出会っていなかったら、もしマゼランやコロンブスがビタミンCを知っていたら、もしモルヒネの分子が少しでも違った構造であったなら——、間違いなく、世界地図は今と全く違うものになっていたでしょう。この講座では、医薬という切り口を通して世界の歴史を眺めつつ、医療と人類の現在と未来を考えてみたいと思います。

### 講師 佐藤 健太郎（サイエンスライター）

東京理科大学、東京工業大学大学院（修士）卒業の後、国内の製薬企業で医薬品研究に携わる。2007年に独立してサイエンスライターとなる。2009年より東京大学理学系研究科化学専攻にて特任助教（広報担当）に就任、東大の化学系の研究内容発信に携わった。現在はフリーの立場で、化学・医薬関連の記事・書籍執筆を行う。2010年科学ジャーナリスト賞、2011年第1回化学コミュニケーション賞（個人）を受賞。著書に「医薬品クライシス」「炭素文明論」（いずれも新潮社）、「ゼロリスク社会の罠」（光文社）、「ふしぎな国道」「世界史を変えた薬」（いずれも講談社）など。

### 開催概要

- 日時：2016年7月20日（水）19:00～20:30（18:30 開場）
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：1,000円
- 申込方法：来館（1階受付）、電話（03-3502-3340）、Eメール（college@hibiyal.jp）いずれかにて  
① 講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。